

# 通 告 質 問 一 覧 表

(平成30年12月定例市議会)

順 位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
1	1	16 番 川 上 博 司	<p>1 防災・減災対策について</p> <p>(1) 災害時に個人がとるべき避難行動を時系列にまとめた計画「マイ・タイムライン」の普及に取り組むべきではないか。小中学校の防災学習として「マイ・タイムライン」づくりの授業を行なうべきではないか</p> <p>(2) 水害等を想定して開発された「逃げ地図」を今後地域防災計画を見直す際の参考にすべきではないか</p> <p>(3) 地域防災計画に観光客に対する避難場所、避難経路を定めるべきではないか。また、外国人観光客への情報伝達に関する事項も必要ではないか</p> <p>(4) 災害発生時にペットの飼い主が自己の責任で行なうペットの同行避難や適正な飼養管理ができるように、ペットの飼養や管理方法を普及啓発すべきではないか。また、関係団体と連携して円滑な救護活動が協働できるよう獣医師会や民間団体等と災害時の協定を締結すべきではないか</p> <p>2 立地適正化計画について</p> <p>(1) 総合計画との整合性は取れているのか</p> <p>(2) 地域公共交通網形成計画との関係は強化されているのか</p> <p>3 空き家対策について</p> <p>(1) まちづくりに関係した計画に空き家対策をどのように位置づけているのか</p> <p>(2) 地域の実情に応じた条例をつくるべきではないか</p>
2	2	4 番 森 上 昌 生	<p>1 平成30年7月豪雨災害における市の対応について</p> <p>(1) 市は昭和47年災害の教訓をどのように生かしてきたのか</p> <p>(2) 昭和47年災害以降、各地域の地勢的な変化をどのように認識し防災対応してきたのか</p> <p>(3) 今回、災害関連死によって亡くなられた方がおられるが、災害関連死を認定するのに時間を要したのはなぜか</p> <p>(4) 成羽複合施設の建設が災害復旧や他の施策に比べて優先的に進められていると感じているが、どのような理由からなのか</p> <p>(5) 今回の災害における市民への情報伝達や連絡網に混乱が生じていたのではないかと感じる。今後こうした市民への情報伝達や連絡網などの見直し、整備が必要ではないか</p>

順位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
2	2	4 番 森 上 昌 生	<p>2 平成 30 年 7 月豪雨後の高梁市の将来像について</p> <p>(1) 今回の災害によって災害復旧は最優先されるべきではあるが、市の他の各種計画をどのように見直していくのか</p> <p>(2) 今年度の観光関連の予算はほぼ凍結状態と聞かすが、今後の観光施策をどのように計画していくのか</p> <p>(3) 今後、高梁市の人口は減少の一途をたどることが予想されるが、市が市としての自治体機能を維持できる人口限界はどれくらいとシミュレーションしているのか</p> <p>① そうした人口限界を下回ったときに市はどのような状況になるのか</p> <p>3 城主猫について</p> <p>(1) 備中松山城の城主猫として「さんじゅーろー」と名付けた猫を観光マスコットとしてPRしているが、市として今後どのように対応し活用するつもりなのか</p> <p>(2) 「さんじゅーろー」は観光マスコットとして活躍が期待されるが、これを機会に高梁市の動物愛護意識を高める取り組みは考えられないか</p>
3	9	1 番 伊 藤 泰 樹	<p>1 防災について</p> <p>(1) 災害時の情報伝達について</p> <p>① 町内会長、民生委員、愛育委員、福祉委員等への情報伝達は誰がどのように行っていたのか</p> <p>② 災害状況の迅速な情報共有と、配信情報への画像添付ができないか</p> <p>(2) 自主防災組織の拡充と避難場所について</p> <p>① 平成 30 年 7 月豪雨災害時に開設した 29 の避難所において、各所何人の市職員が配置されていたのか</p> <p>② 自主防災組織の重要性をどう認識しているのか</p> <p>③ 今回の災害を教訓として避難場所の見直しは考えられているのか</p> <p>④ 自主防災組織が避難場所の選定、開設、運営を行い、行政がサポートする形はできないか</p> <p>⑤ 指定避難場所の全トイレの洋式化、防災ラジオの配置台数の増、ケーブルテレビの加入などの改善を計画的にできないか</p> <p>2 高梁市教育大綱の基本目標の真意について</p> <p>(1) 郷土の偉人「山田方谷」に学ぶ道德教育の充実事業の成果と課題をどのように捉えているのか</p>

順位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
3	9	1 番 伊 藤 泰 樹	(2) 高梁市から全国大会へ挑戦する人や団体の助成、支援について ① 助成を受けるためにはどういった条件があるのか ② 支援事業の拡充を検討されないのか
4	8	9 番 石 井 聡 美	1 防災対策について (1) 緊急時に必要な情報を常に携帯できる「防災カード」のテンプレートを広報紙やホームページで配布してはどうか (2) 安価に設置が可能で、停電時にも使える半鐘を改めて見直してはどうか (3) 7月豪雨災害のような状況でのダム放流時には、浸水の可能性がある地域へ市の広報車で告知に回ることはできないか (4) 災害時の情報共有について、より確実に情報を届けるために、非常時にSNSの利用や情報端末を活用できるような学習の場を平時に設けるべきではないか 2 産業振興について (1) カード決済を検討しつつも、導入に係る費用や使い方への不安から導入に踏み切れない個人事業主を支援し、キャッシュレス社会への対応を図っていくため、市としても市内商業者の決済手段の導入を補助金や税制面での優遇などで推進、支援してはどうか 3 観光振興について (1) 旧吹屋小学校校舎の保存修理が2020年に完成予定である。2025年には大阪万博が決定するなど今後数年間は大きなインバウンド集客の可能性があるが、市として統合的な観光施策を進めるために、観光協会統合の推進や新たな観光アクションプランの策定など、観光産業の推進に向けた施策を打ち出すべきではないか (2) 旧吹屋小学校のプールを観光用に再整備してはどうか 4 ごみの削減について (1) 2013年のデータでは、岡山県は全国第3位のリサイクル率だが、高梁市は県内全市町村の中で最下位の11.1%だった。現状ではどうなっているのか (2) リサイクル率を高め、ごみを減らすために数値目標を設定し、例えば雑紙を入れる専用の回収袋を販売する、ペットボトルの回収箱を大型店舗に設置するなど、具体的な施策と結びつけてリサイクルの推進を図ってはどうか

順位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
5	3	2 番 森 和 之	<p>1 平成 30 年 7 月豪雨災害について</p> <p>(1) 水源池について</p> <p>① 今回の豪雨災害で無事であった水源池も、今後の災害に対し安全性に問題はないか検証する必要があると考えるがどうか</p> <p>(2) 吸水土のうについて</p> <p>① 最近では、水を吸収して膨らむ土のうがあり、床下浸水などには効果的であると考え。町内会支援制度を活用しての購入や配付をメニューに加えられないか</p> <p>(3) 災害時の広報について</p> <p>① ダムの放流量とともに水位がどれくらい上昇するのか、防災メールで配信できないか</p> <p>② ダムの放流サイレンに対する市民の理解が高まるように、改めて周知すべきではないか</p> <p>(4) 他の市には設置されている危機管理室について</p> <p>① 今回の豪雨災害を受けて復興対策課が設置された。しかし、これからも起こるであろう自然災害に対応するには、市役所内に危機管理室が必要ではないか</p> <p>(5) ダム防災について</p> <p>① 今回の状況を踏まえて、高梁市に関係するダムの管理者との協議をいつ、どのように行っていくのか</p> <p>(6) ききょう緑地グラウンドについて</p> <p>① 現在策定中の復興計画で、どのように復旧工事を行っていくのか</p> <p>(7) 復興計画について</p> <p>① 高梁市復興計画が策定中であるが、具体的な復旧、復興方法や新たな防災手段などが見えないと感じる。予算とのかね合いもあるのだろうが、特に被害の甚大だった地区には、早急に具体的な実施計画が示せないか</p> <p>② 財政が厳しい高梁市にとって、国からの財源が復興を進めるに当たっての頼みの綱である。努力しているとは思いますが、現在の状況はどうか</p> <p>③ この災害によって、今まで進めてきた子育て支援、移住、定住など重要施策が後退するのではないかと懸念している。これらの重要施策に対する市の考えを聞きたい</p>
6	4	5 番 三 村 靖 行	<p>1 平成 30 年 7 月豪雨災害について</p> <p>(1) 7 月の豪雨の災害原因をどのように捉えているのか。また昭和 47 年災害との違いを問う</p>

順位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
6	4	5 番 三 村 靖 行	<p>(2) 7月と9月の豪雨で津川、巨瀬地域の簡易水道が断水した。この原因を問う</p> <p>(3) 有漢町では県広域水道からの受水があるので断水はなかった。津川、巨瀬地域は現状のままだと今後も断水が懸念される。県広域水道からの受水へ切りかえはできないのか</p> <p>(4) 成羽川にかかる備中町の用瀬橋（幅員 1.8メートル）が全壊流出しているが、この際緊急車両の通行が可能となるよう幅員を広くして復旧すべきではないか</p> <p>(5) 川面町市場地区は高梁川の左岸側に位置し、しかも水衝部であり、大雨時には堤防の決壊の恐れがある。早急な河川のしゅんせつ、護岸工事を県に強く要望してもらいたい また、有事の時の対応として持ち運びのできる排水ポンプを常備できないか</p> <p>(6) これから多くの災害復旧工事が本格化するが、建設業者は減少し従業員も激減している。このような状況の中、復興の時期はいつごろになるのか</p> <p>2 学童保育について</p> <p>(1) 開設時間について、高梁市学童保育条例施行規則には午前8時30分から午後5時までとなっているが、この時間だと子育てしている保護者は送り迎えしていると働くことができない。働きやすい環境に改善できないか</p>
7	10	8 番 石 部 誠	<p>1 平成30年7月豪雨災害の被害が拡大した原因について、市はどのように考えるのか</p> <p>(1) 平成30年7月豪雨災害の被害が拡大した原因は、大きく「成羽川、高梁川のダム放流のあり方」「過疎、高齢化による山林、農地、宅地の荒廃や道路や水路が管理できなくなったことによる土砂災害」「現在ある防災計画や災害時の対応が、現実に即さず被害が大きくなった」の3点と考える。市は原因についてどのように考えているのか</p> <p>① 個人や地域による防災を強調されるケースが多いが、強調する理由について丁寧な説明を求める</p> <p>② 高梁川は国、県の管理であるが、国や県、民間ダムも含めた一元的管理が必要と考える。また国、県を交えた高梁川流域全体で豪雨時のダムの放水を想定した防災訓練を行うことが必要ではないかと考える。国や県内他自治体と中国電力に申し入れを行い実現ができないか</p>

順位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
7	10	8 番 石 部 誠	<p>③ 防災の観点から過疎、高齢化による地域の荒廃に対する地域支援が必要ではないか</p> <p>④ 今回の災害により今までの防災計画では対応できないことがはっきりした。特に「水門や陸閘の管理と運営」「市職員など人的配置」「情報の伝達や内容」「避難所運営」などの問題点と改善点をどのように考えているか。地域と一体で検証し、計画の見直しと改善を求める</p> <p>2 災害の被害は甚大である。復旧だけでなく、その後の復興計画を見越した計画策定を求める</p> <p>(1) 現状の被害件数と金額はどのくらいか。また公的支援ができず個人で復旧を余儀なくされた件数と被害総額はどのくらいあるのか</p> <p>(2) 他市との被災者支援に差があるのはなぜか</p> <p>(3) 今回公的支援ができないとされた方についても、支援が行われないことにより離農や離業、また住んでいる土地を離れることに拍車がかかると考える。農業者、中小零細業者を含めた支援の幅を大きくしてほしい</p> <p>(4) 斎場、し尿処理場、ごみ処理場は高梁川に隣接し被災したが、復旧と合わせて立地場所を含めた復興計画が必要ではないか</p> <p>(5) 河川からの浸水による被害が大きかったが、河川堤防のかさ上げはできないか</p> <p>3 平成 30 年 7 月豪雨災害後の行政サービスについて</p> <p>(1) 高梁市では行財政改革が推進されている。今回の災害により未執行の事業の一部が取りやめとなったが、災害を理由に行政サービスが低下しないように望む</p> <p>① 事業を取りやめた件数、削減された金額、理由を教えてください。また本来なら補正予算が組まれる予定であった事業について、金額と理由を教えてください</p> <p>② 来年度以降の予算編成において、事業の凍結は考えているのか。また高梁市行財政改革プラン実施計画には実施予定年度が明記されていたが、前倒しを行うようなことはないか</p> <p>③ 市は災害復旧に取り組んでいるが、定住促進を見越した復興を行うよう求める</p>

順位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
8	7	11 番 宮 田 好 夫	<p>1 平成 30 年 7 月豪雨災害から</p> <p>(1) このたびの水害では高梁川や成羽川上流のダムの放流が被害を拡大した要因の 1 つと考える。豪雨が予測される場合にダムの貯水量を極限まで少なくするようダム管理者に要請することはできないのか</p> <p>(2) 洪水により大量の土砂が堆積している。立ち木も数多く生えて川の流れの支障になっている。河川のしゅんせつや木の伐採を強力に進めるよう管理者へ要望すべきではないか</p> <p>(3) 土砂災害や内水による浸水も多く発生した。一方で従来からの道路や水路の改良工事を求める市民要望も多く寄せられている。今回の災害を踏まえ、どのような方針で市民要望に対応していくのか</p> <p>(4) 被災箇所の原状回復のみでは、いずれまた被災する。改良復旧についてはどう考えているのか</p> <p>(5) 事業の見直しについて</p> <p>① 災害復旧に集中するため、従来から行っている事業を見直すと表明しているが、どのような考え方や手法で進めているのか</p> <p>② 事業の見直しについて、議会との協議や市民への周知はどのように考えているのか</p> <p>2 佐与谷川の水質について</p> <p>(1) 佐与谷川上流にある土管から出ている水を住民が採取し検査を行った。結果はヒ素が基準の 5 倍以上、ほかにも高い数値を示す物質が含まれていた。佐与谷川の水質検査を市として定期的にできないか</p> <p>(2) 水質が環境基準を超えていたことから、県に行政手続法による調査を求めて住民が申し立てている。市としても県への要請や情報収集に取り組むべきではないか</p>
9	6	3 番 平 松 賢 司	<p>1 災害時の情報提供について</p> <p>(1) 平成 30 年 7 月豪雨災害で市が発信した防災、避難情報の内容が市民に適切に周知されていたのか</p> <p>(2) 災害時には、災害発生から避難、生活再建など時期に応じた必要な情報を適確な手段で発信できないか</p> <p>① 今回の豪雨災害を踏まえて防災ラジオ、防災メール、ケーブルテレビ、市のホームページで発信する防災、避難情報の充実を図るべきではないか</p>

順位		通 告 者	項 目 及 び 要 旨
発言	受付		
9	6	3 番 平 松 賢 司	<p>② 今回の災害で甚大な被害を受けた地域には、雨天時に屋外で情報発信できる常設の放送塔を設置してはどうか</p> <p>③ 広瀬地区や阿部地区など今後も浸水被害が想定される箇所に、水位や交通情報を確認できるライブカメラを設置するよう道路や河川の管理者に要望すべきではないか</p>
10	5	7 番 石 田 芳 生	<p>1 防災・減災について</p> <p>(1) 災害時の情報伝達手段の1つとして防災ラジオが導入されたが、聴取困難な地域があると聞いている。現状をどのように把握し、今後どのように対応していくのか</p> <p>(2) 避難所の指定については地域の実態に応じた避難所の指定をすべきではないか</p> <p>(3) 日常生活を送るのに支援や介護が必要な市民の避難場所や避難方法についてはどう考えているのか</p> <p>(4) 高梁川あるいは成羽川上流のダムの管理が防災や減災に寄与するところが大きいのではないかと感じているが、今後市としてはダムの管理についてどのように関わっていくのか</p> <p>(5) 今回の災害を教訓として、市民からは地域で避難所の管理をしたり、自主防災組織を立ち上げたいとの声を聞くが、行政としてどのように対応していくのか</p> <p>2 災害後の財政運営について</p> <p>(1) 災害関連予算が約 100 億円。また約 30 億円あった財政調整基金の大部分を取り崩さなければならない状況である。本年 11 月には市長とともに議員有志で陳情活動を行ったが、特に復旧復興の財源となる特別交付税の重点要望や災害復旧費国庫補助金かさ上げの要望についてはどのような見通しを持っているのか</p> <p>(2) 災害後の厳しい財政状況の中で、事業を継続するのか、中止あるいは縮小するのかという判断はどのように行っているのか</p> <p>3 市内の県立高等学校について</p> <p>(1) 11 月 15 日に公表された「岡山県立高等学校教育体制整備実施計画案」では、備北地区は県内で最も中学校卒業見込み者数の減少率が高いことや、平成 35 年以降の再編整備基準が明記されている。本市でも「高梁市県立高校の在り方を考える協議会」の中で、市の方針や支援方法を提案してきたが、今後どのように対応していくのか</p>